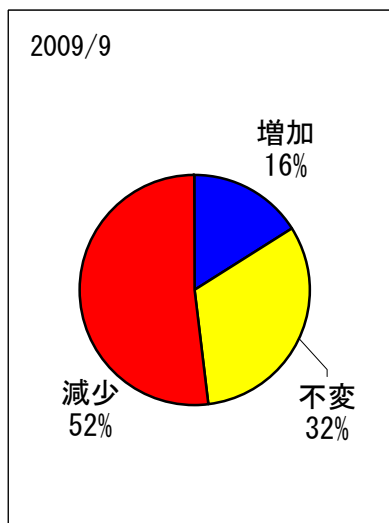
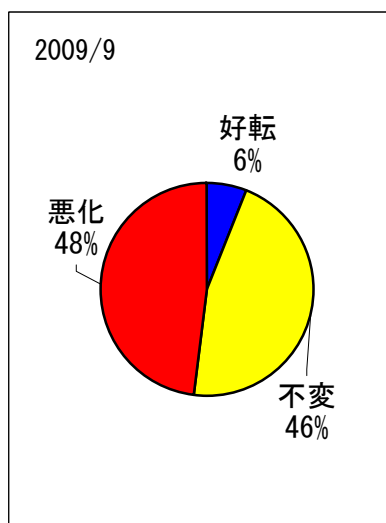


# データから見た業界の動き (平成22年9月分)

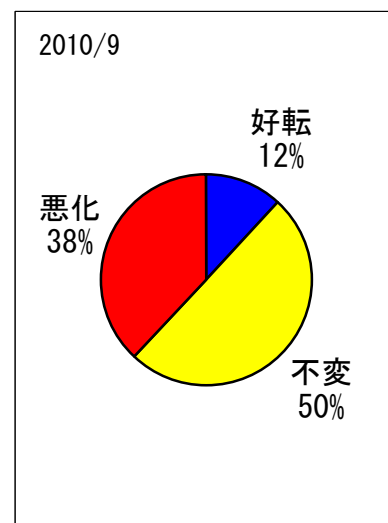
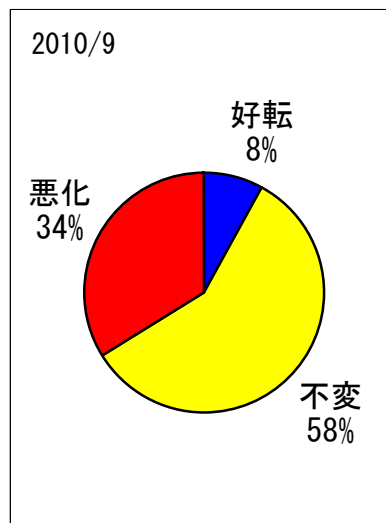
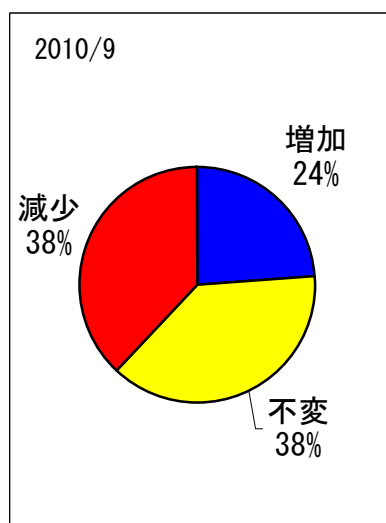
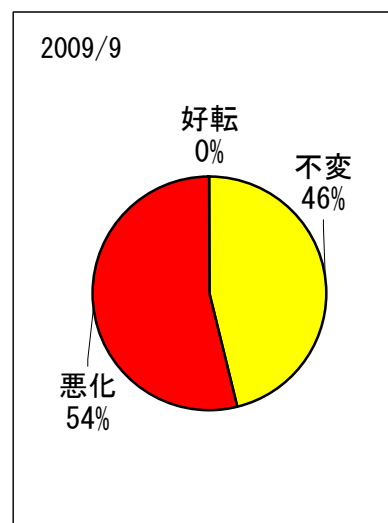
売上高 (前年同月比)



収益状況 (前年同月比)



景況感 (前年同月比)



■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

区 分	製造業			非製造業			合 計		
	09/9	10/8	10/9	09/9	10/8	10/9	2009/9	2010/8	2010/9
対前年,前月,当月									
売 上 高	-55	5	-15	-23	10	-13	-36	8	-14
収 益 状 況	-40	-15	-20	-43	-23	-30	-42	-20	-26
景 況 感	-60	-15	-15	-50	-37	-33	-54	-28	-26

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100)=D.I値

## ■ 概 況

本県の9月の景況では、全業種のD I値が、売上高-14（前年同月比+22）、収益状況-26（前年同月比+16）、景況感-26（前年同月比+28）と前年同月比は全項目でポイントが改善している。業種別のD I値で見ると、製造業は、売上高-15（前年同月比+40）、収益状況は-20（前年同月比+20）、景況感-15（前年同月比+45）と前年同月比のポイントは改善したが、売上高の前月比では-20ポイントと悪化した。また、非製造業のD I値は、売上高-13（前年同月比+10）、収益状況-30（前年同月比+13）、景況感-33（前年同月比+17）と、製造業と同様に前年同月比においては全項目で改善しているものの、前月比売上高は、非製造業で-23ポイントと悪化しており、全体の売上高の前月比は-22ポイントの悪化となっている。

政府発表の月例経済報告では、これまで「景気は持ち直してきている」としてきた国内景気の表現を「このところ足踏み状態となっている」とし、基調判断が下方修正されている。

急速な円高の影響や海外経済の減速を受けての景気の停滞が要因と思われるが、中小企業への今後の影響が懸念される。

情報連絡員による県内の9月の業況報告は、一部では売上の伸びなど好転している業種も見受けられたものの、全体的に厳しいコメントが占めており、製造業では、「受注、売上の減少」「先行きが不透明」「見通しは暗い」など不安材料あるといった報告が目立った。非製造業では、卸売業、宿泊業で尖閣諸島影響の問題による影響が出ているほか、今夏の猛暑の影響を受けている業界もある。

中小企業の厳しい経営環境は、依然として続いており、製造業、非製造業ともに先行きの不透明感と不安材料が増している状況が見受けられる。

## ■ トピックス

今回9月の調査は、8月に引き続き、円高による県内の中小企業や業界への影響について、現状と進展状況、今後の懸念材料などを聞いた。主な業界の報告は次のとおり。

「輸入材（外材）は減少傾向」（木材製品）、「大手企業や下請企業の海外生産シフト進展は、零細企業の危機的状況を招くと懸念される」・「受注量の著しい減少がある」（一般機械器具）、「地金の高騰による商品単価の上昇」（宝飾・貴金属製造）、「外国人観光客の増減に大きく影響」（宿泊業）、「国内工場の海外移転と空洞化が加速し、自動車メーカー系の輸送が減少する」（運輸業:トラック）

## ■ 業界の声

### 【製造業】

- 食料品（水産物加工）／お土産、ギフト関係は前年並。婚礼用食材の新規開拓分が上積みとなり、全体の売上は前年同月比111.4%となったが、ベース部分が減少。新規開拓が鍵となっており、先行き不透明である。
- 食料品（洋菓子製造）／猛暑の影響と消費マインドの低下からスーパー、専門店向けとも低調で売上は前年同月比80.3%と大幅な落ち込み。コラーゲン等を使用した健康菓子里に力をいれたい。
- 食料品（ワイン）／ワイナリーは10月に入るとワインヌーボーの製造が始まる。今年は原料のブドウが病気で不作。製造量が予定通り確保できるか、また価格面など不安材料がある。
- 繊維・同製品（織物）／婦人服地の引き合いは、初秋物の時期が短縮され、円高の影響もあり一時の活発さがなくなってきた。袖表は最盛期の70%程度であり、順調にオーダーは入っているが、原糸が不足している。傘関係にオーダーが入り出したが、ロット小さく、全体的に厳しい。
- 木材・木製品製造／仕事量は相変わらず下降傾向。
- 家具製造／日本経済全般がデフレ傾向にあり、売上単価が下がり大変厳しい。この傾向は当分続き、見通しも暗い。
- 印刷／景気は悪い方に傾いており膠着状態。
- 窯業・土石（砂利）／前年度と比較して売上高が50%増加しているが、収益状況、資金繰りとも好転せず悪化している。稼いでも特採料で資金繰りは悪化。この問題は制度が変わらない限り改善されない。今後については湯水期に入り河川工事が一斉に発注され、高速道建設工事があるため売上の不安はない。
- 窯業・土石（生コン）／9月は昨年比に相当数量が増加した。リニア、商業施設ほか、甲府地区の一部小中学校の体育館などが動き出したことによる。しかし峡北、峡西地区は著しく土木物件が減った。
- 一般機器(1)／9月に入ってから在庫調整等の影響で受注が僅かながら減った。
- 一般機器(2)／業種によっても異なるが、リーマンショック以前に比べれば、-20%位の仕事量に戻って来たところもあるが、価格面で2~3割の値引があるため実質は、55%~60%の売上となり、決してよい状況とはいえない。今後の見通しについては、新興国向けの設備関連の減少や、円高による輸出関連に影響が出て、国内の在庫量が増大する中で、円高により中国、韓国からの製品が流れ込んで来るため、尚一層厳しい状況になると思う。
- 電気機器／企業間格差が出始めている。全体的に低調で、先々が不安。
- その他(貴金属(1))／路面店の売上減少に歯止めがかからない。
- その他(貴金属(2))／仕事がない。例年は9月から11月にかけてクリスマス（年末）商戦の生産で忙しいが、ここ数年通常月と変わらない。

### 【非製造業】

- 卸売（塗料）／円高で最終的には2、3の工場が閉鎖をすると思われる。山梨県も大手が撤退をする恐れが強い。
- 卸売（紙製品）／依然として仕入れ競争が行われ利益率が低下している。政治経済の混乱で今後の見通しがつかない。尖閣列島中国漁船衝突問題で輸出古紙関係に問題が出るだろうと懸念されている。
- 卸売（ジュエリー）／国内景気の回復が実質的にはない状況。内需落ち込みの悪影響が大きい。

- 小売（SC）** / 1階の専門店・食品売り場が9月をもって全面撤退した。9月は精肉と米販売のみであったため、補えきれず全体でマイナスとなった。専門店の動きは衣料関係は良い、悪いが店で二極化した。3階の書店は売上が二桁ペースで心強い。また、輸入食品専門店が好調である。
- 小売（青果）** / 天候不良、高温により野菜、果実が不作であり、入荷減少で高価格となっている。当分この状態が続く。
- 小売（食肉）** / 夏の猛暑の影響で、豚枝肉価格が高値で推移。また、客足も乏しく、売上、粗利共に減少。後半はB-1グランプリ優勝の効果でとりもつの動きだけは顕著。
- 小売（水産物）** / 9月は前半においては8月の猛暑の後遺症で引き続き景気低迷感が強かったが、後半は天候が味方し、景気の下げ止まり感を実感。
- 小売（自動車）** / 新車購入補助金の打ち切りにより、足元の受注は前年比約40%にまで落ち込む
- 小売（石油）** / 9月は原油価格が上昇傾向に転じる中で、猛暑は収まったものの円高ドル安でガソリン、軽油が小幅の値下げ（1円～2円程度）、灯油は横ばいとなった。10月は原油価格が75ドル（1バレル）台と下落傾向に転じたことや猛暑が終わった後の需給緩和を反映してSSの販売価格は横ばい気味に移行すると予想。
- 商店街** / 夏休みのレジャーなどには出費があるが、商店街にはお金は落ちない。
- 不動産取引** / 景気回復の見込みなし。7月1日現在の基準地価格も18年連続下落で、かつ、横ばいの地点もなし。
- 宿泊業(1)** / 年々中国人観光客の占める割合が大きくなってきているが、尖閣諸島問題以降、キャンセルが相次ぎ、組員合計で1000人余りにもなり、キャンセル料も入らない状況である。今後ますます中国人観光客の割合は大きくなると思われ、受け入れ態勢はもちろん、キャンセル料の契約もしっかり取り決める必要がある。景気低迷のため、国内旅行は遠出が敬遠され、人の流れが滞りがちである。
- 宿泊業(2)** / 昨年と比べバケーションが少なく、夏の旅行にシフトしたため悪化した。中国との国際問題で実際のキャンセルが発生しているようだ。そのため空室を埋めるため価格が下落している。
- 宿泊業(3)** / 国内の観光客数は前年と同じだが、くだものの不作で減少傾向が見られる。尖閣諸島問題では現状河口湖地区では影響は出ていないようだ。
- 美容業** / 猛暑の影響で昼間の時間帯は顧客が全く入店せず、予約が入らない状況だったため、売上げが昨年より2割減少した。今後パーマ講習、着付講習等と新しいファッションを取り込んで、顧客に提案したい。
- 建設業（総合）** / 受注動向については、多少の増減は月々においてあるが、平成22年度末を見据えた場合マイナスとなることが予想される。
- 建設業（型枠）** / 最近多くの公共事業が前倒しにより発注され、仕事量はやりきれないほど。しかし元請の低入札競争により工事単価はますます下がり、赤字工事となる上、県外に無駄な応援を頼んでいる状況。来年以降の仕事の減少も危惧され、適量の公共事業の発注、低入札禁止を強く要望する。
- 建設業（鉄構）** / 各社の現状は何とか工場が回っている状況で、11月以降は仕事が少なくなる気配がある。受注価格は相変わらず低水準となっている。
- 設備工事（電気工事）** / 景気の先行不安のためか 民間の事業が例年に比べ落ち込んでいるところに、あいまいな政府の対応のため、ますますマインドが落ち込んでいる現状である。ハウスメーカーの受注は安値物件しか伸びていず、一部の電気業者が対応しているが利益率は見込めない状況である。
- 設備工事（管設備）** / 厳しい状況が続いていたが、9月に入り工事量が増加、それに比例して材料の売上も上がり、前年同期レベルまで持ち直すだろう。
- 運輸（タクシー）** / 昨年に比べ売上げ少し上がった。業界の景気動向は昨年と変わらないが、稼働率が良かった。見通しは良くない。